

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
210003	X-01/21-A-1-210003			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	基礎 基礎 基礎 × × 基礎	選択 選択 選択 × × 選択	1年 1年 1年 × × 1年
授業科目	担当教員	2	前期				
異文化理解	小山田 紀子						

授業目的

いま日本では「ヒト、モノ、カネ、情報」の国境を越えた往来が活発に行われ、国際化が急速に進んでいる。この国際化の波は私たちの生活にさまざまな影響を与えている。われわれの身のまわりでも外国人の姿が目立つようになつたし、また私たちが海外に出て行くチャンス—海外旅行、留学、ビジネスなど—も増えてきている。そしてそれは多かれ少なかれわれわれに異文化接触の機会を提供することになる。このような国際化の時代にあって、「異文化理解」の必要性が声高に唱えられるようになってきたのだといえよう。しかし、異文化への理解というと、とかくそれ自体がよいことであるようなニュアンスがあるが過去には植民地支配のための異文化理解もあったし、市場獲得を目的にした異文化理解もありうるわけで、そう考えると、何のためのどのような異文化理解かが問われなければならないであろう。また、異文化というと何も国際間のことだけではなくて、国内の異文化もあるわけで、国内の文化を単一的なものと捉える感覚が、異なる文化の拒否や排除につながっていくケースも見られるのである。

本講義では、私の海外生活の経験を踏まえて、異文化接触の諸相をさまざまな事例から紹介していきたい。ヨーロッパにおける移民問題、日本における在日韓国朝鮮人問題や外国人労働者問題、国際交流や教育の国際化がもたらす問題、あるいは個人のレベルでは国際結婚というテーマもあるであろう。さまざまな角度から異文化理解の問題を考えていきたい。さらに国際化時代から地球時代へと移りわりつつある今日、われわれは異文化理解を通して、自分の国の利益だけにとらわれずより広い普遍的な発想を持つ地球市民としての生き方が求められているといえよう。

各回の授業内容

第1回	【授】 序論—私の異文化体験 【前・後】 予習1時間・復習2時間。シラバスの読んで、異文化理解とは何かについて考えてくる。授業範における問題提起に対して自分の意見をノートにまとめる。	第9回	【授】 日本における「異文化理解」と多文化共生の試み—いちょう小学校の事例— 【前・後】 予習2時間・復習2時間。配布資料を読んでノートのまとめ
第2回	【授】 異文化接触の諸相—ヨーロッパの移民問題（総論） 【前・後】 予習2時間・復習2時間。配布資料を読んで、ノートのまとめ	第10回	【授】 日本における「異文化理解」の試み—日本のムスリム（イスラーム教徒）の文化と社会—（1） 【前・後】 予習2時間・復習2時間。配布資料を読んでノートのまとめ
第3回	【授】 フランスの移民問題（1） 【前・後】 予習2時間・復習2時間。ビデオの感想文を書く	第11回	【授】 日本における「異文化理解」の試み—日本のムスリム（イスラーム教徒）の文化と社会—（2） 【前・後】 予習2時間・復習2時間。配布資料を読んでノートのまとめ
第4回	【授】 フランスの移民問題（2） 【前・後】 予習2時間・復習2時間。配布資料を読んで、ノートのまとめ	第12回	【授】 日本における「異文化理解」と多文化共生の試み—群馬県大泉町の事例— 【前・後】 予習2時間・復習2時間。配布資料を読んでノートのまとめ
第5回	【授】 フランスの移民問題（3） 【前・後】 予習2時間・復習2時間。配布資料を読んでノートのまとめ。ここで中間レポート（フランスの移民問題について）を課す。	第13回	【授】 日本における「異文化理解」と多文化共生の試み—移民・難民と日本社会— 【前・後】 予習2時間・復習2時間。配布資料を読んでノートのまとめ
第6回	【授】 日本の外国人労働者問題（1） 【前・後】 予習2時間・復習2時間。配布資料を読んでノートのまとめ	第14回	【授】 異文化理解の授業総括—平和のグローバル化のために— 【前・後】 予習2時間・復習2時間。配布資料を読んでノートのまとめ
第7回	【授】 日本の外国人労働者問題（2） 【前・後】 予習2時間・復習2時間。配布資料を読んでノートのまとめ	第15回	【授】 定期試験—レポート— 【前・後】 復習2時間。15回のまとめのノートを読み返して復習をする。ノートのまとめ
第8回	【授】 日本の外国人労働者政策と「移民政策」の今後 【前・後】 予習2時間・復習2時間。配布資料を読んでノートのまとめ	第16回	【授】 第5回目に、中間レポートの課題を課す。 【前・後】 レポート作成のために4時間が必要。

成績評価方法

中間レポートの点数（30点）、期末試験（レポート）の点数（70%）を合わせて総合的に評価する。各回に学生にコメントペーパーを書いてもらい、次回の授業でその内容を紹介したり、質問に答えたりし、教員と学生との双方向的な授業を進める。したがって、中間レポートや期末試験の課題についても、これらの双方向的な学生とのやり取りを踏まえていることが評価に反映される。

教科書・参考書

教科書は使用しない。

参考書

- ・山本三春『フランス ジュネスの反乱』 大月書店、2008年
- ・依光正哲編著『日本の移民政策を考える』、明石書店、2005年8月
- ・高谷幸編著『移民政策とは何か：日本の現実から考える』 人文書院、2019年4月
- ・限界国家—人口減少で日本が迫られる最終選択—』 朝日新書、2017年6月

その他は授業時間中、適宜指示する。

受講に当たっての留意事項

授業への出席を重視します。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		×

学習到達目標

2年次後期（または3年次後期）の海外留学や今後の異文化接触の機会に役立つ視点を獲得すること。

JABEE

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習